

あまの愛人

会報 第二十六号

発行日 平成十三年九月二十一日
 編集人 南洲吟道会広報局
 発行人 理事長 吉永 洲神
 〒257-0805 東京都中野区白鷺二一三四一五
 (株)日本吟道学院南洲吟道会
 ☎・FAX 〇三(三三三〇)七〇〇九

本部だより

またまた優勝 詩吟名人会

グランドチャンピオンを懸けた紅白ペア対抗戦

去る2月24日、浅草演芸場東洋館に於いて、盛大に催された恒例の詩吟名人会で、過去の紅白ペア対抗戦の優勝チームばかりが結果して、グランドチャンピオン選抜戦が行われ、本会代表の次の方々が見事優勝された。おめでとございます。

菊田 正祥さん(龍陽会第二)

山岸 志祥さん(若鷺)

なお、木代妙祥(中町会)・山内雄祥(洲神会第二)チームは、よく健闘されましたが、惜しくも第四位でした。13名の応援団有難うございました。(広報局)

平成十三年度春季昇段審査 結果報告

四月八日(日)本会春季昇段審査会が、鷺宮高齢福祉センターに於て肅々と実施され、次のとおり審査決定されました。なお、これに先立ち、千葉地区合同審査会が理事長出席の下、四月七日(土)習志野市谷津公民館に於て開催されました。(指導局)

少年の部		一般の部	
初段 七名	四級 四名	初段 七名	初段 七名
二段 八名	一級 一名	二段 八名	二段 八名
中伝 六名	中伝 六名	三段 三名	三段 三名
八段 十六名	八段 十六名	初伝 三名	初伝 三名
準師範 一名	準師範 一名	六段 六名	六段 六名
師範 七名	師範 七名	五段 十二名	五段 十二名
計 七十一名	計 七十一名	四段 三名	四段 三名
		三級 七名	三級 七名
		二級 七名	二級 七名
		皆伝 三名	皆伝 三名
		九段 二名	九段 二名
		助教 一名	助教 一名
		教授 二名	教授 二名
		十段 四名	十段 四名
		範師 一名	範師 一名
		計 十二名	計 十二名

◆13・14年度総本部役員決定

常務理事・総裁室長・教議室委員 吉永 洲神
 理事待遇・女性吟道振興委員会委員長 吉永 龍陽
 指導本部部長 中島 昭祥
 山内 雄祥

◆佐藤勝龍本会監査役は、事業本部役員として本会を代表して十年に及ぶご活躍を頂きましたが、お勤めの都合で引退される事になりました。永い間本当にご苦労様でした。

◎次期温習会決定

同志会員の皆さま、どうぞスタンバイ下さい。
 と き…平成14年4月7日(日)10時〜17時
 と ころ…中野区野方区民ホール

平成十三年度 本学院年度会費ご協力について(御礼)

理事長 吉永 洲神

次の22名の方々が、平成十三年度本学院法人正会員として新たに加入されました。

- 1 青木 泰祥(若草)
- 2 中島 濃城(八王子会)
- 3 佐藤 恵城(中町会)
- 4 進藤 高城(中町会)
- 5 西谷 邦城(中町会)
- 6 清水 京城(瑤洋)
- 7 萩野 進城(習志野会)
- 8 我妻 建城(いずみ会)
- 9 小田代武城(習志野会)
- 10 山田 豊城(中町会)
- 11 小林 健城(習志野会)
- 12 佐藤 峰城(三菱)
- 13 木代 裕城(中町会)
- 14 横山 治城(八王子会)
- 15 船橋 春城(中町会)
- 16 阪本 瑞城(中町会)
- 17 佐藤 廣水(三菱)
- 18 藤沢 恒水(洲神会)
- 19 前島 容水(中町会)
- 20 栗原 美水(中町会)
- 21 大塚 優水(若草)
- 22 赤池 徳水(洲神会)

お蔭様で本会の法人正会員は90名となり、その増加数は全国一位であるとして、総本部から感謝状を受けました。また、一般会員の方々も121名が協力下され、会員増加数11名として本会は銅賞を受賞しました。同志会員の皆様に、遅れ馳せ乍ら厚く御礼申し上げます。

感謝状

南洲吟道会 殿

貴会は本学院の目的である世界の平和と人類の福祉に貢献する吟道の普及に邁進され、平成十三年度において本学院経営の基盤たる法人正会員を多数加入させられました。よって会員増強年間に当り、茲にその功を讃え感謝の意を表します。

平成十三年 四月十四日
 社団法人日本吟道学院
 総裁 森 豪神

表彰状

会員増加数 銅賞

南洲吟道会 殿

貴会は本学院の目的である世界の平和と人類の福祉に貢献する吟道の普及に邁進され、平成十二年度において多大の実績を残されました。よって会員増強年間に当り、茲にその功を讃え、これを表彰します。

平成十三年 四月十四日
 社団法人日本吟道学院
 総裁 森 豪神

本会会員の男女別・年齢別状況

本会同志会員の平均年齢62歳 (13. 5. 8現在)

全体の平均年齢62歳 (62歳)

女性の平均年齢62歳 (62歳)

男性の平均年齢63歳 (63歳)

総伝以上の平均年齢72歳 (71歳)

男女の比率

女子 53.8% (55.5%)

男子 46.2% (44.5%)

(括弧内は12. 11. 8現在)

平均年齢は、小数点1位を四捨五入した。

(西武新宿線野方駅下車徒歩三分)
詳細は追ってご連絡します。

◎住所変更の届出がありました。
お手持ちの名簿を修正して下さい。

- ☆中村 雪水(山内教場)
〒一八五〇〇二二 国分寺市東元町三二一九一
☎〇四二一三二二一五〇三二
 - ☆篠田 葉城(国分寺教場)
〒一八三〇〇三二 府中市西府町四一〇一三四
☎〇四二一五〇一五二五二七
- 新入会員ご紹介 どうぞよろしく!!

- ☆早乙女 渚(こだま) 会員No.六五九(12・7・23付)
〒一六四〇〇〇一 中野区中野三一九一九
☎〇三三三八四二四三三八
- ☆山田恵美子(八王子会) 会員No.六六〇(12・9・1付)
〒一九二〇〇三四 八王子市大谷町一四一
☎〇四二一六五一一六二四
- ☆前田 龍盛(拓大) 会員No.六六一(12・4・1付)
〒一九三〇〇八八五 八王子市館町八一五一 拓大扶桑寮
☎〇四二一六五一一六二四
- ☆福田奈々子(拓大) 会員No.六六一(12・9・1付)
〒一一五〇〇五一 北区浮間一―一―一五
☎〇三三三九六八―四四四四
- ☆小林 和子(山内) 会員No.六六三(12・11・7付)
〒一八五〇〇一四 国分寺市東恋ヶ窪六一〇―二四
☎〇四二一三三三三三〇三七
- ☆斉藤 嘉助(八王子会) 会員No.六六四(12・11・12付)
〒一九三〇〇八三四 八王子市東浅川町七四八
☎〇四二一六六一―一三六八
- ☆篠 フサ子(若草) 会員No.六六五(13・1・26付)
〒一六五〇〇三二 中野区鷺宮四一四三一―一五
☎〇三三三三三三九一二五二一
- ☆塚野 好枝(山内) 会員No.六六六(13・4・24付)
〒一八五〇〇三六 国分寺市高木町二一八―五五
☎〇四二一五七五―一六〇七〇
- ☆吉沢まさの(船橋) 会員No.六六七(13・5・18付)
〒二七五〇〇二六 習志野市谷津五一四―一八
☎〇四七―四九三―三三三二
- ☆木内 元春(習志野会小田代) 会員No.六六八(13・5・27付)
〒二七五〇〇二二 習志野市袖ヶ浦二―三―一五―四〇八
☎〇四七―四五二―〇九七三
- ☆桑山 導雄(習志野会小田代) 会員No.六六九(13・5・27付)
〒二七五〇〇二六 習志野市谷津三―二八―二〇―四〇六
☎〇四七―四五二―一六二七七
- ☆森 宣生(洲神会第一) 会員No.六七〇(13・9・1付)
〒二七三〇〇〇一 船橋市市場四―二―一―一
☎〇四二―三三三―一八六八八
- ☆河野富美子(山内教場) 会員No.六七二(13・9・1付)
〒一八五〇〇〇三 国分寺市戸倉四―五〇―一五
☎〇四二―三三三―一八六八八
- ☆浅野 章子(山内教場) 会員No.六七二(13・9・1付)
〒一八五〇〇三三 国分寺市西町三―八―二―一
☎〇四二―一五七四―九五四三

平成13年度春季昇段審査に参加して

習志野会小田代教場 成田 史郎

春の昇段審査が、四月七日に実施された。今回審査を受けられる方九十二名中、千葉地区の受験者が二十九名と約三割を占めており、吉永先生のご好意により初めての試みとして、千葉地区での審査が決定し、船橋、習志野、船橋湊、小田代

の四教場の受験者は、習志野市谷津公民館にて実施して頂けることとなった。

実施内容は左記の通り。
日 時 平成十三年四月七日 午前半時～午後五時
会 場 習志野市谷津公民館
昇段審査対象 四教場受験資格者

教場名	段位	船橋	習志野	船橋湊	小田代	計
	十段	1				1
	師範	1	1			2
	八段	2	6			8
	六段		1			1
	五段			3		3
	中傳		3			3
	二段		2		1	6
	初段		1		1	5
	計	1	14	3	8	29

午後二時、広瀬正龍先生の開会宣言で審査会開会。次いで、斉藤孝祥先生の先導で「敬天愛人」を合吟した後審査開始。審査は、初段者から始まり順次高段者へと進む。高段者も初心者も受験者全員が、そわそわとした落ち着かない雰囲気会場をただようなか、審査が始まる。吉永先生のきびしい視線を感じながら、一変して真剣そのものの日頃教場で教えられた成果をこの一吟に集中した吟が、堂々と熟吟される。初段から順次六段受験者までが受験を終え、次いで奥傳審査へと進む。高段者の熟吟が続き午後四時四十分全審査が終了した。

引き続き吉永先生から講評を頂く。

「審査の結果は、全員が八十点以上、一人の脱落もなく全員合格である。ただ、注意点を申し上げると、普段より発声に注意を払い、正確な発声・正しい発音に心がけること。正しい発音には、正しいアクセントが要求される。そして原則として二音一音リズムを作っている。したがって言葉のリズム、読みのリズムを大切にしましょう。などの教えもいただいた。

各教場ごとに、普段先生から教えられた通りのことを、間違いない堂々と腹の底から胸をはって大きな声で発声し朗吟する皆さん方に感動し、漢詩、和歌、俳句と教本に目もくれず、朗々と吟じられる高段者の吟に感心させられた。

高段者だけの教場、初心者から高段者までの幅広い教場、指導される先生方の大変なご苦勞を思い、改めて感謝申し上げます。

次回の秋季審査に向けて練習に精進することが、唯一ご恩に報いることだと信じ、今回同様に全員合格をめざし頑張ってください。



習志野会小田代教場

千葉地区合同昇段審査会



詩歌投稿

八王子会 中島濃城

俳句

持養や 終の住処の 木守柿
銀杏の 拾う老婆の 独り言
雪催ひ 白根の湯釜 消えてをり
髪染むる 妻の背中や 年の暮れ
初雪や 障子放ちて 独り酒

八王子会 脇 成城

元旦詞

洲神傘下友朋円 洲神傘下、友朋円なり
喜得同門有善縁 喜び得たり同門、善縁有るを
師弟提携興斯道 師弟提携、斯道を興さん
頌歌高詠迎春天 頌歌高詠ず、迎春の天

(下平声一先韻)

その後の西郷どん(その五)

城山に骨を埋む

上村健二

二月十五日鹿兒島を出発以来七ヶ月目に鹿兒島に帰った薩摩軍は、僅かに三七二名であった。市民は歓呼して迎えこれを支援した。この頃桐野はなお「鹿兒島で補給を整えた上、長崎へ進出挽回」を考え、人を送って画策していた。しかし、当時の兵力のうち銃器を所持するもの僅かに一五〇名内外、西郷は自らも募兵に当たったが、思うように集まらなかった。そこで、城山に防塁を築いて根拠地とし防戦することにした。政府軍は、用心して十重二十重に囲み、山県軍は自ら前線を視察した。そして、「明九月二十四日総攻撃」を前日の二十三日に予告した。その二日前の九月二十二日、山県は前にも触れたが、知己の心情から西郷に私信を送り、「独り余生を全うするに忍びず：事の非なるを知りつつも、遂に壮士に奉戴せられたるに非ずや：然らば即ち：人生の毀譽を度外に置き、復た天下後世の議論を省みざるのみ、噫君の心事たる是に悲しからずや：」と述べ、後段に至って「君何んぞ早く自ら凶らざるや」と自裁を勧めた。西郷が死ねば彼我の死傷は救われる、というものであったろう。

一方、薩摩側では辺見十郎太が、大勢の挽回絶望とみて、政府軍に使者を送り、西郷の助命と理非曲直を算すべきことを要請するように意図した。その中で西郷の助命については西郷に伏せて言わなかった。西郷は、笑って同意を与えた。使者は河野と山野田で、軍使としての一旛の旗を携えて保塁を出て、九月二十三日、参軍川村と面会した。しかし、川村は二人の言い分を聞くとはせず、西郷に対し「速やかに僕のところへ来られよ」「子供(菊次郎)の始末は引き受けた」「本日五時までに回答を」と伝えさせた。この時、河野は官軍陣中に拘束され、山野田がこれを西郷に報告した。その時、西郷は決然として「回答の必要なし」と言い切った。

九月二十三日の夜、決別の宴が城山の洞窟内で催され、歌

う者、吟ずる者がある中で

中島健彦は、

君がため、おもい立田のうすもみぢ

時雨れぬさきに散るもうれしき

橋口奉岑は、

露ならば草の葉末もあるものを

今はわが身のおきどころなし

桂四郎は、

篝火の煙りの上に澄む月の 清き心を誰に語らむ

当時の西郷の心境は「城山」の詩として残っている。

(西道仙作)

孤軍奮闘破圍還 一百里程堅壘間

吾劍已摧吾馬斃 秋月埋骨故郷山

九月二十四日午前三時五十分頃から、政府軍砲撃開始。約二時間、薩摩の保塁は悉く沈黙した。

西郷以下四十数名の領袖壯士は、各自の洞窟を出て、死地を求めて岩崎谷口に向かった。その間小倉壯九郎は自刃し、桂武久は弾に当たって斃れた。辺見十郎太は、別府晋介とともに西郷の左右を守っていたが、西郷に向かって「先生もうこの辺でよろしいでしょうか」と言った。辺見と別府はあらかじめ西郷から介錯を頼まれていた。西郷は、首を横に振って「まだまだ本道に出てからいさぎよく死のう」と自決ではなく戦死を望んでいた。行くこと一丁余り、敵弾が激しくなったので辺見は再び問うたが、西郷は「まだまだ」と坂を下って島津應吉邸の門前まで来た時、弾が西郷の右大腿骨、股間と腹部を貫通して倒れたが、直ちに上半身を起こし、別府に向かつて「晋どん晋どんもうこの辺でよかろう」と静かに地上に端座し、両手を合わせて東方禁闕を拜んだ。こうして晋介の介錯によって瞑没した。五十歳。九月二十四日午前七時頃であった。

西郷の首は従僕によって折田正助邸の門前に埋められた。

辺見は一先生は戦死されもした。先生と一緒に死んものは皆で死にもそ(一緒に死ぬ者は皆で死にましよう)と呼びかけながら乱戦の中奮戦して陣没した。西郷に殉じた主要領袖は村田、桐野、桂、池上、別府、山野田、辺見、堀、中島、小倉等で戦死一五七名、投降三〇〇余名、十四歳から十七歳の「稚児桜」の数名も最後まで戦った。戦が終わったのは午前九時(七時過ぎとも)であった。進軍以来二一七日、城山に籠もってから二十三日目の敗北であった。

戦が終わって死体検死が行われたが西郷の死体はなかなか見つけれなかった。さてはと更に首のない死体を検査すると、太兵肥満、藍色縞の単衣に黒い兵児帯、白木綿の袴、素足に小紋の脚絆姿のそれを見つけ、右腕の古い刀傷、すごく大きな聖丸から西郷の死体と断定した。しかし、その首はなかなか見つからなかった。それは介錯した別府がその従僕の手で折田正助(島津應吉とも)の門前の石のかけ橋の泥の中に埋めたことが判り、早速掘り返して泥の中から見つけ出した。頭髮は五分刈りの丸々とした首級は、清水で丁寧洗い清めた上で参軍山県の前に捧げられた。

山県は「天下の大英雄：千古の遺憾事千歳の悲惨事」と涙とともに声をつまらせた。そして、「死体に無礼の振る舞いなきように」と訓戒した。

西郷の死体は、桐野、村田等の三十九名の死体とともに浄光明寺に送られた。大山巖や県庁から遺骨の下げ渡しの申請があったが、結局、県庁に引き渡され旧藩の手によって葬儀が行われ三十九名とともに埋葬された。その後、明治十六年不断光院、草牟田、新照院、城山の埋葬体とともに南洲墓地として改葬された。

有栖川宮総督は九月二十七日鹿兒島に着き、解団の命令を

下し、二十八日鹿児島発、十月一日東京に帰着された。
薩摩軍の戦没者は鹿児島のみならず、宮崎、熊本、福岡、大分、山口、長崎、山形、山梨、東京、京都の各府県に互り、総計七二七六名、別に長崎に設けられた臨時裁判所で処刑された者もあった。
一方、政府軍の戦死者、負傷後志望者は合計六八四二名であったと言われている。
(顧問)

― 第四回女流大会に参加して ―

龍陽第一教場 岩井 絢 龍

南方海上の異常水温の為か、今年の暑さは格別で、身も心も半病人に近く、毎日なすすべもなく冷房の中で過ごして参りました処、涼しげな水色表紙の吟道誌八月号が届き、忘れていた大会のことが走馬燈の如く駆け巡り、蘇ってまいりました。

六月二十四日江戸川区民ホールで開催されました第四回女流大会は、二十一世紀の大会としてまことに相応しく、特に絢爛豪華な衣装を身につけた龍陽先生を筆頭とする女流五人衆の吟ずる構成吟「長恨歌的一幕」はまことに圧巻で、唯々聞きほれ、心を奪われてしまいました。

南洲吟道会は、伊藤和祥・堀内愛祥・湊山冨祥の皆さんが、それぞれ独吟をされ、合吟は龍陽先生の先導で「心に太陽をもて」を吟じましたが、ある先生に南洲会さんは「いつも素晴らしい吟を聞かせてくれますね。」と言われました。私は、川村・安永・松本・新村の皆さん方と一緒に構成吟の中で「天の原・望郷の詩」を吟じ、その中の和歌「天の原ふりさけ見れば春日なる三笠の山に出でし月かも」の短歌を吟じさせていただきましたが、読み返しておりますうちに、作者阿部仲麻呂の心情が良く伝わってきて、着物は桜の模様で帯は月に芒をあしらった絵柄のものと思ひ揃えましたが、結局本部の帯を使うことになりました。

吟も、先生の指導のもとでしっかりと練習したつもりですが、リハーサルも本番も仲々吟に乗れず、いつの場合でも「今度こそは」の夢が儂く破れてしまいます。これも唯々努力が足りないのか、それとももって生まれた素質のせいなのかと悩み落ち込んでしまいましたが、そのようなとき、理事長・会長先生の暖かい励ましの言葉がパワーとなり、この二十数年間をどうにか過ごしてまいりました。心から感謝致します。

これから又、三十周年大会に向かって忙しくなるかと思いますが、全員で団結してこれに向かいたいと思います。私も亀の歩みの如くではありますが、枯れて散るまで精進を重ねてまいります。

この度は女流大会に出場させていただき、真に有難うございました。



吟詠は決して難しいものではない。「私は音痴だから」と尻込みする方がありますが、やる気さえあれば音痴など関係ありません。先賢の教えが、感情が、籠められた詩文を読むだけで、心が洗われるものです。背筋を伸ばし、胸を張り、腹の底から発声する時、詩吟の醍醐味があるのです。
吟詠は不思議なものです。悲しいときは、力を与えてくれる。嬉しい時は、その喜びを増強してくれる。冠婚葬祭どこでもできる。親の前でも子供の前でも、どこでもできる。吟詠は単なる趣味ではなく、趣味以上の何かがあります。吟詠は易しくとも奥は深い。これぞ正しく、人生のバックボーンと言えましょう。これが「吟道」と言われる所以ではないでしょうか。
ところで、最近は何でもコンクールばかりでありません。私も吟詠の世界でもコンクールは盛んです。その「コンクール荒し」というのが流行っている様です。ろくに稽古もせず（かも知れない）あちこちのコンクールだけを渡り歩くのは如何なものでしょうか。勿論充分な練習を積んだ上で本番に挑戦することは、立派な事です。コンクールに就いて、千住真理子バイオリニストの興味あるコラムをご紹介します。（左の囲み記事）

才能を比較するとき 千住真理子（バイオリニスト）

（13・8・10東京新聞夕刊）

江藤俊哉バイオリンコンクールは毎年夏に、東京の小平市で行われていて、今年で六回目を迎えた。その本選会が先週行われ、私たち審査委員はそのきらめく才能に、順位をつけなければならなかった。「全員一位にしたい」と皆くちぐちいながらも、それぞれの価値基準の中で点数をつけた。審査委員の点数を単に合計したものがそのまま順位となる。つい最近まで順位をつけられる例だった様に思う私は（いや、そんなに若くないが）、まるで自分が順位をつけられているような錯覚に、どっと疲れた。はつきりいってそれぞれにすばらしい才能が見られた。中には絶対に優勝するはずであろう人が思わぬところで失敗したために順位が下になる。あるいは調子が出ていない様子が演奏にあらわれ実力のある人なのに順位が下のほうになる。彼女たちが自信を失い、その才能を自ら捨ててしまうことが恐ろしい。

私自身若いころコンクールに出て失敗し、予選落ちした経験もある。12歳でプロデビューしていたため自意識過剰と言えるほどに世間の目が気になっていた。コンクールに落ちた時この夜の終わりと思ったほど落胆し、世間に対して恥じ、蒸発したいと思っただけの経験がある。こんな結果になるくらいなら受けなければ良かった、とも思った。
しかし今言える事がある。挫折は私の演奏生活にとって宝になった。栄光はむしろ本人にとって必ずしもプラスにならない。コンクールに落とされた悔しさを機動力にして立ちあがった人だけがプロとして生き残っていく。後輩たちの才能を私は見守りたい。

新年度の役員も決まり、八月十一日本部で、広報局の打合せ会が、前部長も参加され実施されました。
今後についての在り方が話し合われました。同時に数々の反省点が提議され、特に、「教場めぐり」の復活が強く提案されました。
次回『中町会』を復活第一号として再開されます。どうぞご期待下さい。小泉泰龍前局長・児玉智龍前部長、水い間のご活躍有難うございました。
(広瀬広報局長)

訃報

共に吟じた在りし日の御姿を偲び、

謹んでご冥福をお祈りします。

- 理事・熟年教場幹事長 高橋 龍愛様 (13・5・13 逝去)
- 経理局経理部次長 金井 龍恵様 (13・5・30 逝去)
- 習志野会幹事長 古屋 秋祥様 (13・9・10 逝去)